

平成26年度事業報告書(H26.4.1～H27. 3. 31)

平成26年度の日本経済は、26年4月の消費増税の影響から力強さを欠くものの、長かったデフレ状態からの脱却をようやく果たしたと思われました。反面、実質賃金の上昇が物価の上昇に追いつかず、景気の完全な回復は足踏み状態に陥り、先行きの不透明さは新年度にも持ち越された感があります。同時に、製薬企業においては寄附金管理の厳正さが求められており、財政面での支援に頼らざるを得ない公益法人としては、楽観できない状況にあります。

このような中で、財団の賛助会員の減少が続いており、26年度には4社の退会に見舞われました。一方、中核賛助会員企業からは依然として力強いご支援をいただいております。財団としては、骨粗鬆症が生活習慣病であることの認知活動とともに、財団の行う事業自体の公益性と透明性をより広く関係各方面に働きかけることで、賛助会員の獲得に注力する所存です。

平成26年度の特筆すべき活動としては、事業計画で柱として掲げた「骨粗鬆症検診の受診普及活動」の一環として、自治体に対しアンケートによる検診実態調査を行い、厚労省の協力を得て動画集『検診の実際』を作成しました。以来、自治体の検診担当者から事務局へ問い合わせが増えております。また、ホームページの大幅改定を行いました。内容をより一層充実させ、一般市民、医療従事者及び賛助会員から喜ばれる情報の提供に努めていきたいと考えています。以下にこれらの活動内容を概説します。

(1) 普及・啓発事業

イ) 骨粗鬆症に関する一般市民および保健医療従事者啓発資料 作成・配布

①ポスター

- ・「世界骨粗鬆症デー」のポスター「自分の足で歩くことの幸せ -骨粗鬆症・ロコモの予防-」

②単行本

- ・「骨量測定装置設置先名簿(2013年12月現在)」
- ・「骨粗鬆症検診・保健指導マニュアル 第2版」
(保健指導シートを充実させ、新たに「ロコモ運動」「ビタミンDとKを含む食品」を追加)
- ・「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版」作成の協力(日本骨粗鬆症学会・日本骨代謝学会と共同)

ロ) 財団ホームページの充実と有効活用

- ・平成26年度(26年4月～27年3月) アクセス数
訪問者数: 28,862/月(総計346,349)
ページビュー: 78,831/月(総計945,976)
- ・トップページへのバナー広告掲載で運営費の確保(10社)
- ・全体リニューアル(10月)
新着情報を事務局内で更新できるシステム……掲載数が大幅増加
PCやスマートフォン、タブレットでの表示を最適化
- ・「病医院リスト」のリニューアル(2月)
各登録者(病院)自身で登録や変更ができる「登録フォーム」の開始
- ・教育セミナーの記録集をアーカイブ化

ハ) Q&Aの対応

- ・メール、電話、Faxによる問い合わせへの回答 合計338件(資材請求含む)
- ・「骨粗鬆症予防と治療ガイドライン2011」等からの転載許諾対応

ニ) 財団主催・後援によるセミナー、講演会、イベントの実施

- ・市民公開講座2014「ご存知ですか？骨の健康 “骨粗鬆症の正しい知識と具体策”」

日時：平成26年10月18日(土) 13時～16時

場所：イイノホール(東京都千代田区)

講師：『基調講演』林 泰史 先生

講演①石橋英明 先生 講演②松井 浩 先生 講演③石田裕美 先生

パネルディスカッション：「ドクターへの質問コーナー」講師4名と細井孝之 先生

骨量測定、出展コーナー(乳製品、FRAX値測定、ロコモチェック等)

参加者：470名(骨量測定:251名)

・「骨量測定拡大キャンペーン2014」

* 骨粗鬆症検診の現状を把握するため、全国1,740の自治体に対しアンケート調査実施(6月)

結果報告Ⅰ：オステオポロシス誌投稿

「骨粗鬆症検診・健康診査に関するアンケート調査」 Vol.23 No.1,2015

結果報告Ⅱ：自治体検診担当者向け勉強会開催の代わりに動画コンテンツを作成し、ホームページに掲載

アンケート結果に加え、「骨粗鬆症の基礎知識と骨折の予防」や自治体(東京都板橋区・長野県飯島町)の骨粗鬆症検診・集団健康教育における成功事例等を紹介(1,740の自治体には、映像コンテンツ掲載開始をハガキにて紹介)

・街頭大型ビジョン広告(高田馬場駅前 稲門ビジョン)「世界骨粗鬆症デー」動画放映

平成26年10月1日～31日(7時から23時 16時間/日) 15秒CM×4回/時(64回)

同映像はホームページにて常時公開



ホ) 地域骨を守る会の支援・連携

・第4回「全国骨を守る会連合会」の開催

平成27年2月1日(日) AP東京八重洲通り Cルーム

(参加)

札幌骨を守る会、新潟骨を守る会、高齢者運動器疾患研究所、東京骨を守る会、名古屋骨を守る会、北陸大学骨を守る会、京滋骨を守る会、骨粗鬆症・生活習慣病ネットワーク

<主な議事>

* 平成26年度 各地域の骨を守る会の活動報告

* 骨粗鬆症財団の活動報告

(1) NPO法人化延期の説明

(2) 他地域での立ち上げの準備(広島・市民公開講座開催)

* 地域骨を守る会への支援

* 連合会のバッジ制作について

へ) 骨粗鬆症財団ニュースの発行

(一面タイトル)

No. 25(6月) 「骨粗鬆症検診・保健指導のマニュアル 5年ぶりに改訂」

No. 26(1月) 「日本の大腿骨近部位骨折発生率」

ト)教育セミナーの開催及び記録集の作成

・第62回(平成26年7月11日(金)、AP東京八重洲通り Kルーム)

※台風にて中止:予定していた内容

講演Ⅰ「骨粗鬆症の検診・予防・治療の費用対効果について」

神戸薬科大学医療統計学研究室 講師 森脇 健介 先生

講演Ⅱ「ステロイド性骨粗鬆症の管理と治療ガイドライン:2014年改訂版のポイント」

東海大学医学部内科学系リウマチ内科学 教授 鈴木 康夫 先生

・第63回(平成26年11月21日(金)、AP東京八重洲通り Kルーム)

受講者:36名

講演Ⅰ「骨粗鬆症と医療経済評価」

神戸薬科大学医療統計学研究室 講師 森脇 健介 先生

講演Ⅱ「高齢者におけるサルコペニア・フレイルと転倒・骨折」

東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座 准教授 小川 純人 先生

・第61回記録集作成(平成26年7月発行)

チ)精度よくDXAで骨量測定するための講習会 5回開催

共催:GEヘルスケア・ジャパン、東洋メディック、日立アロカメディカル

後援:日本骨粗鬆症学会、日本骨代謝学会、日本骨形態計測学会

講師:福永仁夫 先生、曾根照喜 先生、友光達志 先生

| 回 | 開催日 | 開催場所 | 受講者数 |
|------|----------------|------|------|
| 第13回 | 平成26年 5月18日(日) | 東京都 | 43 |
| 第14回 | 平成26年 6月 1日(日) | 鹿児島市 | 66 |
| 第15回 | 平成26年 9月 7日(日) | 新潟市 | 36 |
| 第16回 | 平成26年11月30日(日) | 松本市 | 43 |
| 第17回 | 平成27年 2月15日(日) | 金沢市 | 36 |
| 計 | | | 224名 |

リ)女子中高生と母親の啓発活動

「成長期にある子供とその母親の骨密度強化啓発と親子の相関性調査」14年目、

聖マリアンナ医科大学 清水弘之 先生の協力のもと骨量測定会を実施

・聖ドミニコ学園 :平成26年10月26日(生徒 14名、母親 25名、親子ペア 31組)

・洗足学園 :平成27年 2月26日(生徒 160名、母親 25名、親子ペア 13組)

(2)研究助成事業

イ)平成26年度 3研究助成の交付

(1)第22回(平成25年度)財団研究助成

研究期間:平成26年4月~27年3月 助成金額:1件80万円 応募者数 36件

| | 課 題 | 所 属 | 氏 名 |
|---|---|--------------------|-------|
| 1 | 予防的幹細胞投与によるステロイド性骨粗鬆症の次世代治療 | 順天堂大学形成外科学講座 | 大下 高志 |
| 2 | 骨粗鬆症,サルコペニア由来の慢性疼痛を含めたADL障害への運動,ビタミンD投与の前向き介入試験 | 千葉大学大学院医学研究院整形外科学 | 大鳥 精司 |
| 3 | ミトコンドリア酸化ストレスによる骨及び骨格筋代謝制御機構 | 千葉大学大学院医学研究院先進加齢医学 | 清水 孝彦 |
| 4 | 糖代謝異常が引き起こす骨脆弱化における筋肉・骨の臓器連関の役割の解明 | 近畿大学医学部再生機能医学教室 | 田村 行識 |

| | | | |
|---|-----------------------------------|---------------|-------|
| 5 | 関節リウマチの骨粗鬆症と骨微細構造、骨強度に対するデノスマブの効果 | 国共連 浜の町病院整形外科 | 馬渡 太郎 |
|---|-----------------------------------|---------------|-------|

(2) 第10回(平成26年度)リリー研究助成プログラム(骨領域研究)

研究期間:平成26年1月~26年12月 助成金額:1件80万円 応募者数 24件

| | 課 題 | 所 属 | 氏 名 |
|----|--|-------------------------------|-------|
| 1 | 椎体の構造解析による骨粗鬆症の進行と新規骨折の予測 | 岐阜大学大学院病態制御学講座解剖学分野 | 東 華岳 |
| 2 | 一般住民における腰痛発症と骨粗鬆症との関連についての縦断調査:かつらぎ町STUDY | 和歌山県立医科大学附属病院紀北分院 脊椎ケアセンター | 石元 優々 |
| 3 | テリパラチド連日投与終了後の骨吸収亢進状態に対するアレンドロネートとデノスマブによる骨吸収抑制効果の比較検討 | 大阪大学大学院整形外科学 | 蛸名 耕介 |
| 4 | 拡散MRイメージングを用いた椎体における血流および骨梁構造の定量評価に関する研究 | 金沢大学医薬保健研究域保健学系 | 大野 直樹 |
| 5 | 関節リウマチ患者において、血清ビタミンD値は転倒と関連するのか?IORRAコホートをを用いた検討 | 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 整形外科 | 越智 健介 |
| 6 | 骨粗鬆症および膠原病疾患患者における非定型大腿骨不全骨折の発生頻度およびその臨床経過に関する縦断研究 | 新潟大学大学院機能再建医学講座整形外科学分野 | 近藤 直樹 |
| 7 | PTH製剤(連日型)2年間投与後、骨吸収は急速に抑制した方が良いのか、緩徐に抑制した方が良いのか | 昭和大学病院整形外科 | 永井 隆士 |
| 8 | テリパラチド及びデノスマブを用いた関節リウマチ性骨粗鬆症治療戦略 | 信州大学医学部運動機能学講座整形外科 | 中村 幸男 |
| 9 | 新鮮椎体骨折に伴う痛みと骨折椎体の可動性について | 医療法人富田浜病院整形外科 | 新美 壘 |
| 10 | 地域一般住民における骨代謝マーカー血清TRACP-5bと生活習慣病や栄養摂取量との関連についての疫学的検討 | 久留米大学医学部内科学講座 心臓・血管内科部門 | 深水 亜子 |

(3) 第7回(平成26年度)旭化成研究助成プログラム(骨粗鬆症QOL研究)

研究期間:平成26年4月~27年3月 助成金額:1件50万円 応募者数 28件

| | 課 題 | 所 属 | 氏 名 |
|---|---|-------------------------|-------|
| 1 | 症骨粗鬆症患者におけるテリパラチド製剤の腰背部痛およびQOLに対する有用性に関する多施設前向き研究 | 沖本クリニック | 沖本 信和 |
| 2 | 骨粗鬆症性脊椎椎体骨折後1年以内に連鎖して発生する脊椎椎体骨折の予防及びADL, QoLの改善にテリパラチドは有用か? | 名古屋市立大学大学院医学研究科整形外科分野 | 鈴木 伸幸 |
| 3 | ステロイド投与により骨折をおこす危険性の高い骨粗鬆症(重症GIO)を合併している関節リウマチ(RA)患者にビスホスホネートもしくはテリパラチドを投与し、いずれの薬剤がQOLの維持・改善に有用であるか否か明らかにすること | 埼玉医科大学整形外科リウマチ・股関節・人工関節 | 田中 伸哉 |
| 4 | 骨粗鬆症性胸腰移行部脊椎椎体骨折へのテリパラチドによる保存療法の治療効果判定-患者自記式アンケートを用いて- | 埼玉社会保険病院整形外科 | 辻 収彦 |

| | | | |
|---|---|---------------------------------|-------|
| 5 | 脊椎固定術に対するテリパラチド週1回投与製剤のQOL、骨量、骨質の改善効果の検討 | 和歌山県立医科大学附属病院紀北分院脊椎ケアセンター | 中尾 慎一 |
| 6 | サルコペニア肥満と骨粗鬆症 ー運動機能とQOLへの影響ー | 名古屋大学大学院医学系研究科 整形外科学 | 飛田 哲朗 |
| 7 | 骨粗鬆症由来の脊柱変形に対する強制固定術前後のQOL評価:非手術例との比較 | 秋田大学大学院医学系研究科医学専攻機能展開医学系整形外科学講座 | 宮腰 尚久 |
| 8 | 骨粗鬆症を有し手術を行った脊椎変性側弯症の固定隣接椎体骨折の患者QOLに与える影響と最適固定高位の検討 | 国立病院村山医療センター ー整形外科 | 八木 満 |

ロ)平成25年度助成分 成果報告の雑誌掲載

- ・第21回財団研究助成 報告書 5題掲載 : Osteoporosis Japan Vol.22 No.4, 2014
- ・第9回リリー研究助成プログラム報告書 10題掲載 : Osteoporosis Japan Vol.22 No.3, 2014
- ・第6回旭化成研究助成プログラム報告書 8題掲載 : Osteoporosis Japan Vol.23 No.1, 2015

(3)調査・研究事業

イ)FRAX[®]の評価・検証事業

- ・追加解析「FRAX値を骨粗鬆症のスクリーニングに用いる場合の閾値についてー日本人標準体格を用いての検討からー
太田博明先生、上村タ香理先生、細井孝之先生、財団により、千葉県と富山県のデータ用いて統計解析を行う。
- ・第16回日本骨粗鬆症学会 一般演題39として発表(細井孝之 先生)

ロ)骨粗鬆症治療薬の服用に関するアンケート調査

- ・第1回アンケート回収 約15,000例/1,000施設(12月末)
- ・「第2回世話人会」世話人(11名)による中間報告会を開催
日 時: 平成26年10月31日 17:30~18:30
場 所: 品川プリンスホテル 3F 「すずらん・きんれんか」
プロトコール2ヶ所変更(徳島大学の倫理審査委員会にて申請許可取得)
1. 統計解析McNemar検定からBowker's検定に変更
2. 第2回目アンケート回収期間を平成26年12月31日から平成27年5月31日までに延長

ハ)大腿骨近位部骨折発生率全国調査

2012年度調査の集計完了。第16回日本骨粗鬆症学会にて結果報告(岩手医科大学・八重樫由美先生)

内容:(参考)

本調査は1987年より5年毎に実施され、今回が6回目の調査となる。

2012年の新発生患者数は約175,700人であり増加を続けているが、性・年齢別発生率をみると男女ともに70歳代の発生率はこれまでで最も低く、また男女ともに80歳代の発生率は前回調査(2007年)と比較して低くなっていた。

(4)情報収集&ロビー活動等

イ)IOF関連

- ・第5回IOFアジア-パシフィック地域会議2014 in 台北 出展(山田、荒井参加)
2014年11月14日～16日 於:台北コンベンションセンター
展示:市民公開講座2014会場風景、WOD啓発パネル、骨粗鬆症財団と骨を守る会連合会の活動紹介
- ・IOFアジア太平洋地域報告書 翻訳しホームページに掲載

ロ)健康日本21推進全国連絡協議会との情報交換

- ・会議等出席
 - ・平成27年2月18日 運動・スポーツ分科会出席
 - ・平成27年3月 2日 第17回総会に出席
 - ・平成27年3月20日 栄養・食生活分科会出席
- ・受動喫煙防止のための活動「受動喫煙のない日本」を実現するための環境整備活動 参画

ハ)厚生労働省「がん対策推進企業アクション推進パートナー企業」登録